

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	Pleuroparenchymal fibroelastosis の臨床、画像、病理学的検討
研究責任者	呼吸器内科 生島壮一郎
研究機関名	日本赤十字社医療センター呼吸器内科、病理部
研究目的と意義	<p>2004 年に Frankel らが特発性上葉肺線維症と同様の疾患概念を idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis (IPPF) と命名して発表しました。石綿肺、サルコイドーシス、膠原病関連漿膜炎/間質性肺炎、放射線照射後、造血幹細胞移植後、肺移植後などには IPPF に類似あるいは一致する病変を合併する場合があります。</p> <p>IPPF は 2013 年に発表された ATS/ERS からの提言のなかで RARE idiopathic interstitial pneumonias(IIPS)に分類されて以降、本邦をはじめ多数の症例報告がなされてきました。その特徴に関する報告は散見されるものの、原因や治療法、他の間質性肺炎との異同などについては不明な点も多く、その病態の解明が急務と考えられています。</p> <p>そこで今回我々は、特発性ならびに二次性の Pleuroparenchymal fibroelastosis (PPFE) 症例について、その臨床、画像、病理学的な特徴を解析、検討することを目的に、本研究を計画しました。</p>
研究方法	<p>●対象となる患者さん：</p> <p>2006 年 1 月 1 日から 2016 年 9 月末日までの期間に、当センターにて PPFE と診断された患者さん。</p> <p>・除外基準</p> <p>患者さん、またはご家族が当研究への参加を拒否された場合。</p> <p>●研究に使用する試料：</p> <p>(1) 診療録 (2) 胸部単純写真、CT 画像 (3) 肺病理標本</p> <p>●研究方法</p> <p>診療録から必要な情報を集め、これまでに撮影した画像、肺病理標本を集積し、データベースを構築します。呼吸器内科医、病理医が協調して総合的に診断し、肺病変の臨床像を明らかにします。</p> <p>この方法は後ろ向き観察研究という方法で、新たに患者さん、あるいはご家族への負担はかかりません。匿名化といって個人名を消去し、代わりに番号などを付与して処理を行うことで、誰のデータか分からないようにして、統計解析を行います。その結果は、呼吸器病に関する学会や医学雑誌に公表されることがあります。</p> <p>研究に組み入れられることを希望されない方は、担当医や下記の問い合わせ先にお知らせください。その場合、データ収集や統計解析は致しません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター呼吸器内科</p> <p>〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22</p> <p>担当者：栗野暢康、生島壮一郎</p> <p>TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>